

令和5年度 第4回 竜禅寺小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月20日（火） 15時00分から17時00分まで
- 2 開催場所 竜禅寺小学校 会議室
- 3 出席委員 松本 直己、加藤京子、高須 道男、柳川 春彦、
鈴木 宏幸、北井 実香
- 4 欠席委員 寺田 成一、新井 和美、倉重 建朗
- 5 学校 水野 敦司（校長）、佐々木和也（教頭）、松井 康子（教務主任）
富田みゆき（CS担当教員）坂口 陽介（生徒指導主任）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 中村 朝実
- 9 議長の選出
北井委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

（1）学校関係者評価

① 学校評価の結果、成果と課題

② 「竜禅寺小学校いじめの防止基本方針」について

（2）令和6年度学校運営の基本方針について

（3）学校運営協議会の自己評価

11 会議記録

委員総数9名のうち6名の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立していることを確認をした。

（1）学校関係者評価

① 学校評価の結果、成果と課題

議長の指示により松井教務主任より、学校評価の結果、成果と課題についての説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 子供たち一人一人が、キャリアプランニングできる方法が具体的に示されていて、それがよい評価につながっていると思う。先を見通して、図書室に所蔵されている本の内容を、子供たちにとって興味を持てるものにしたい。また、会議の前に図工の授業を参観したが、子供たちが作業する4台の糸鋸を教師一人が見ていた。これでは、人が足りず負担が大きい。何とかして人を確保したい。（高須委員）
- 来年度に向け、各学年それぞれの授業において、地域の方の力を借りたいという話が出ている。また、様々な方々に学校の活動を支えていただくと有り難い。（水野校長）
- ・ 「足あとカード」「ステップを明らかにしながら」という取組はとてもよい。

子供たちも親も嬉しくなる取組である。(柳川委員)

- ・タブレットの活用を子供たちが器用に行っている。ただ、姿勢の悪さが気になった。健康面の指導を同時に行う必要があるのではないか。また、作業に慣れている子供がほかの子供を教えている姿が見られた。これも良いことである。タブレットへの文字の打ち込みは、基本的にひらがな入力なのかローマ字入力なのか、教えてほしい。(松本委員)

→ローマ字を学習した学年は基本的にローマ字入力をしている。ただ、場面によっては音声入力やフリック入力も使っている。(松井教務主任)

- ・先日、学級閉鎖を行ったクラスがあったが、その間はタブレットを使ってリモート授業を行うこともあったのか。(高須委員)

→5年生で実施した。リモート授業を行うと、実は、対面で行うものが一番よいということ子供たちが実感できる。(坂口生徒指導主任)

- ・学校を欠席していた子供が、家庭でタブレットを使う際には、基本的には保護者が学校へ取りに来るということを徹底した方がよい。教師が、一人に届けることに時間を割くのではなく、みんなのために時間を使った方がよい。教員の働き方改革にもつながると思う。(高須委員)

- ・6年生の子供たちがICTの専門家から話を聞いたそうだが、子供たちはどの程度理解できたのか。

→映像や実物を駆使して、ネットの有益性や危険性をお話ししてくださったので、多くの子供が話を聞いて理解をしていた。(水野校長)

- ・今の子供たちは、大人の話聞いて知識を得ている。話を数々聞けば、理解ができるようになる。(鈴木委員)
- ・小学校でも性教育をすることが大事。性教育は人権教育である。プライベートゾーンを見せないこと、性の多様性や自己理解、自分の体を大切にすることを教育の中に取り入れてほしい。(北井委員)
- ・タブレットを使う際の子供たちの姿勢について先ほど話が出たが、この問題について学校はどう考えているか。(高須委員)

→気になる児童には個別に指導している。また、授業の中で、タブレットは友達との交流や課題の解決など目的を持って使われている。いわば、時間つぶしのように、ずっと使い続けることはない。(水野校長)

- ・タブレットを使い始めると、画面に夢中になり、話す人の顔を見て聞くことができなくなってしまう。タブレットを使う、話を聞くなど、授業にメリハリをつけることが必要になる。(松本委員)

② 「竜禅寺小学校いじめの防止基本方針」について

議長の指示により、坂口生徒指導主任より説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・それぞれの事案に、教師は一つ一つ丁寧に対応していることが分かった。多くの事案の中で、明らかに一人の子供を仲間外れにしたというようなケースが見られたか。(松本委員)

→本年度、本校ではそのようなケースのものはない。子供たちからは、教師の見ていない所でのいじめに関する訴えが多い。本校は一人一人の教師がアンテナを高くし、「いじめ見逃し0」を目指している。(坂口生徒指導主任)

・大勢が生活していく中で、多少の仲間外れはあるものと思う。子供たちは、そうなったときにどう行動したらよいか考えることが大切だと思う。将来、自分で考えて行動できる大人になってほしい。周囲の大人は、子供の訴えを聞き、これからどうするか一緒に考えることが必要だと思う。子供たちの話をしっかりと聞いてあげるのがよい。(高須委員)

・周囲の大人が子供の変化を見逃さないことが大切である。(松本委員)

・授業を参観する中で、友達を思い遣る6年生の姿が見られた。そんな様子から、本校にはいじめはないと思うことができた。あんな姿が見られるのだから大丈夫だ。(高須委員)

→いじめの解釈が法律的に変わった。教師が子供たちに寄り添うことには今までと変わりがない。(坂口生徒指導主任)

(2) 令和6年度学校運営の基本方針について

水野校長より来年度の学校運営の基本方針について説明があった。委員からは以下の発言があり、熟議の結果、基本方針は承認された。

・来年度の重点項目は、子供たちの将来設計も含めたものになっている。大変よいことだが、保護者には分かりづらい。場面をとらえて、丁寧に説明するとよいと思う。また、「健やかな体」づくりのための具体的な取組を教えてほしい。(松本委員)

→体育の学習の中での取組が中心である。健やかな体を持つ子供は目指す姿の一つなので、様々な活動の中で取り組んでいきたい。しかし、朝の全校マラソンや行間の体育など、体作りのために具体的に何かをすることは考えていない。(水野校長)

・昼休みに外に出て遊ぶことも大切だが、体育の授業の中に様々な種目を取り入れてくこともよいのではないか。(鈴木委員)

→体育をきっかけに、色々な運動をしている姿も見られる。(水野校長)

・放課後に学校で遊んでいる子供が多くいる。自由に遊べる環境があることが子供たちにとってとてもよい。(高須委員)

・小中の連携とあるが、合同研修会は毎年実施しているか。令和8年度の部活動の問題があるので、研修会の場でも話題にしてもらい。このことを中学校ではどのように考え動いていくのかを話題にしてほしい。(高須委員)

→合同研修会は毎年実施している。今後、GSや部活動の話を取り上げていきたい。(水野校長)

・子供に自らの思いを発表する場を設けるとあるが、中学生と高学年が交流して一緒にできるような機会は設定されているのか。そのような機会があると自信につながってよいと思う。(鈴木委員)

(3) 学校運営協議会の自己評価

各評価項目について、全員異議なく承認を得られた。

来年度の目標は以下のように承認された。

祝・創立百周年、育成指標を土台に学校、家庭、地域のつながりがさらに密になる取組を話し合おう。

○今年度同様、熟議を通して、学校運営を理解するとともに、学校の良さを発信し、地域の力を学校に生かすための取組を進める。

その他報告事項等

① 読み聞かせボランティアについて

② 夢育やらまいか CS 加算分の報告

教頭より、夢育やらまいか（CS 加算分）について報告があり、全員異議なく、承認された。